

「新しい歴史教科書をつくる会 東京支部」第十三回定期総会 決議文

このたびの東日本大震災ならびに福島原子力発電所事故で、犠牲となられた多くの方々の御霊に頭を垂れ、行方知れずとなつてしまわれた方々のご無念を我がものとし、いまだ苦しい避難生活を送つてゐる大勢の方々にお見舞い申し上げます。

困難な状況にあつても互いに協力し合い、譲り合う被災者、そして身の危険をも顧みず早期復旧をめざし、献身的に働く自衛官ほか多くの人たちのことが世界の称賛を浴びていることに、日本人として誇らしく思います。これは古来日本人がもつ高い道徳性、脈々と流れる大和心の現れです。この不幸な災害から、私たちは家族の絆のありがたさ、確かさを強く感じ取つたはずです。

ところが現在進行中の政治の無為無策による、いわば「人災」には、国民が憤りを覚えています。震災にも似た広範囲な惨事に対し、司令塔不在です。「歩く風評被害」とまで揶揄され、個人プレーに走る現政権トップリーダーの頭の中に、国家という観念を探すことはできません。「全力を尽くす」と嘯いてもその力量が全くないのです。どうしてそういうことになつていたのでしょか。それは今の為政者たちが、戦後長きにわたる太平楽に安住し、個人の自由や権利を謳歌することばかり考え、戦争や有事を観念的に忌避し、歴史に学ぼうとしないからです。現憲法の思想を体現する反国家的市民教育の申し子といえる彼等には、肝心な「市民」を守る力も気構えもないことは、明らかに国民の不運、不幸です。「レベル7」級の害悪をまき散らす内閣は即刻解散に追い込まなければ、国民の不運、不幸は拡大するばかりです。

さて今年は、改正教育基本法とそれに基づく学習指導要領が初めて適用される中学校教科書の検定が行われ、各地区の教育委員会が採択する年です。「新しい歴史教科書をつくる会」が教科書正常化を訴え立ち上がつて以来十四年間の総決算をする大事な年です。これまでの歴史分野に加えて、公民分野においても教科書を『自由社』から発行します。

これらの教科書は、従来の教科書が囚われていた「共産主義」、「中華思想」、「日本悪玉論」、「個人中心主義」などの観念から脱却し、すべての束縛から自由な立場で真に日本人、日本国民を育む教科書であることが、教科書比較研究の結果、証明されました。

私たちは自信と誇りをもってこれら『自由社』の教科書の真価を世に問い、良識を持った教育委員による公正な採択を経て、次代を担う全国の中学生の手に届けようではありませんか。

そこで次のとおり決議します。

- 一、幾多の国難を乗り越えてきた日本の底力を生き生きと描きだし、読む人を勇気づける民族の物語を語り伝えよう。自由社の『新しい歴史教科書』で語り伝えよう。
- 二、家族の絆を国家の礎とする日本人の生き方をまとめた教科書で、日本の復興を担う若者を育てよう。自由社の『新しい公民教科書』で育てよう。

平成二十三年五月十四日

新しい歴史教科書をつくる会 東京支部